

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	加川真美
論文題目	フィリピン・東ネグロス州の山間地域における人々の生存基盤の変容 ー農村と都市のつながりに着目してー		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、フィリピンの東ネグロス州を対象として、都市の発展と山間地農村の変容の関係を、農耕形態、都市と農村の経済的連鎖、人口動態、環境問題、地方行政、土地利用などの観点から分析し、現代フィリピンにおける都市ー農村関係の動向について論じることを目的として行われた研究であり、序章、第1～7章、終章から構成される。</p> <p>序章では、急速な経済成長を続けるフィリピンで、都市の外縁的拡大にともなう離農者の増加や未利用地の急速な開発が、食料自給・環境保全の観点から問題視されてきている。そのうえで、本研究の目的と研究方法を述べる。</p> <p>第1章では、ネグロス島は西と東で地形が異なり、東ネグロス州の山間地には小農による農地が広がる。州都ドマゲッティ市は近年急速に発展している。ドマゲッティ市の後背山地には、自給と商品作物を組み合わせた独自の農業が展開していると調査地の概要を述べる。</p> <p>第2章では、ドマゲッティ市に隣接するバレンシア町の地理的特徴と行政について述べる。都市近郊ながらバレンシア町には1,500メートル以上の標高差があり、起伏に富んだ地形は、各地に多様な生態・生産環境をつくり出している。町には地熱発電所があり、財政的に恵まれている。町役場は、道路などのインフラ整備、パウナイと呼ばれる産直市場の運営など、住民の福利厚生に取り組んでいることを明らかにする。次章からは、このバレンシア町の特徴的な3村について考察する。</p> <p>第3章では、山間地域の奥地農村として、東斜面奥部とドブドブ村への都市の影響について述べる。東斜面奥部は、地熱発電所の道路インフラ整備により都市とつながり、農業は急傾斜地のトウモロコシ・ココヤシの中心的栽培から、パウナイを通じた都市向け野菜生産や果樹栽培に移行していることを明らかにする。最奥地の西側斜面のドブドブ村では2008年ODAにより道路整備後、パウナイの導入によって、焼き畑農業から、都市向けの野菜生産地域へと変貌しつつあると記載する。インフラ整備や生産・流通・販売網などの充実によって、都市との繋がりが山間地域での農耕様式を変化させると考察する。</p> <p>第4章では、タリニス山の尾根上のルンガ村について述べる。ドマゲッティ市の発展をうけて、アバカという山間地農業に適した作物中心の村から都市向けの果樹栽培と都市労働者へ生業選択が多様化し、農民の減少と労働者の増加が生じていると考察する。</p> <p>第5章では、都市近郊の山間地農村ボンボン村の農業と慣習法の変化について述べる。この村では専業農家が減少しているにも関わらず、農地面積が減少せず、兼業化が進行し、副業としての農業が持続されると記載する。ココヤシ園は維持され、果樹栽培と多年生の花弁生産が増加する。果樹栽培は農外就労に出ない人々へ収穫作業と</p>			

いう雇用の機会を提供し、ココヤシからの落下物・山菜など自由に使える資源の慣習的利用は維持され、パウナイの存在により商品化が可能となると考察する。

第6章では、さらに、ボンボン村の生活様式の変化について述べる。マニラへの出稼ぎはなくなり、村に残って雇用労働に頼ることが多くなる。相続により土地の細分化と共住化が同時進行する。サラゴンなどの自給作物への依存から、コメなどの購入が増加する。各世帯は所得に応じて教育レベルや伝統医療か西洋医療かを選択する。このような現金所得・支出の必要性から、旧来の労働慣行も大きく変化すると記載する。しかし、身近な地方都市の影響により市場経済の影響が大きくなっているが、土地利用形態、食事様式や社会関係は山間地農村の特徴が残ることを明らかにする。

第7章では、このボンボン村における一世帯主であるパパイビンに焦点を当て、5章と6章で、考察してきた山間地農家の変貌を考察する。彼は小作人から農地を購入、自作農になる。長女はマニラに出稼ぎ移住、次女と三女は農民、四女は農外就労を選択する。遺産分割の後、各子供は、農業従事、農外就労、農地から宅地へ土地の相続をし、農業も農地も残り続けることを明らかにする。

終章では、これまでの章に総合考察を加える。山間地農村におけるセブアノの人々の移動は、定着後、周辺都市での就労や都市へ農産物を売りに行くという日帰り移動へと生活様式が変わる。都市の周縁拡大化が進行するが、伝統的慣習や作物種などは、それぞれの農村としての特徴が残ると考察している。山間地農村における農業や生業の柔軟性と生活様式は、熱帯山間地農村は都市と柔軟に関係することで、各村はむしろ温帯野菜や花卉の生産地として重要度を増すと考察する。山間地農村には、道路インフラ整備や教育に、パウナイのような生産から流通・販売まで含めた柔軟な産直市場といった低所得農民でも参入出来る行政の仕組み作りが重要と結論づける。さらに、山間地農村は常に低地の都市の影響を受けて変化し、都市の発展が山間地農村の変化を呼び起こし、農耕形態を変化させ、都市と農村の経済的連鎖を強めていると結論する。